

<資料 6-2>

円卓会議発言要旨

関本 博

1. 核分裂、核融合、自然エネルギーの関連

核分裂は 100 万年のエネルギー

貯蔵エネルギーと非貯蔵エネルギー

高密度エネルギーと低密度エネルギー

人類の文明は高密度の貯蔵エネルギーを利用することが基本となっている

核分裂は高密度の貯蔵エネルギーとなっている

2. ローカルオプティマム(LO)とグローバルオプティマム(GO)

一般に政策は LO 探索となる

いったん LO に達するとそれより優れたところへの移動は極めて困難

3. 核分裂利用に関する基本関係（各平衡社会の研究）

3. 1. 中性子バランス 3. 2. 毒性バランス

4. 困難な技術

分離と消滅（原子核工学の最先端：現在その研究は極めて低調）

分離 ウラン濃縮は十分といえるところまで研究された

プルトニウム分離に関してもかなり開発された

放射性毒性を持つ物質の分離に関しては殆どなされていない

核変換 軽水炉によるウランの燃焼は十分といえるところまで研究された

高速炉でのプルトニウムの燃焼に関してもかなり開発が進んでいる

放射性毒性を持つ物質の消滅に関しては殆どなされていない

主張 未来の理想的な核エネルギー利用システムの研究を奨励すべきである。

これらの研究は性急な成果を求めず、

ゆっくりでよいから着実に推進していくべきである。